

授業科目名 (英文名)	工業経済学 (Industrial Economics)	科目区分 対象学生	
単位数	2.0	開講年次・ 学期	2年次・前期
担当教員	河野 俊明	所属	非常勤講師
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	戦後日本の産業社会、工業発展の歴史やプロセス、さらには社会の構造変化のメカニズム等を知ることにより、現代日本の産業社会の「実像」について理解するとともに、日本の産業社会が直面する諸課題に関して、論理的な議論や建設的な提案を可能とするための基本的な知識を習得する。		
講義内容・授業計画	<p>第1回～第4回 産業社会の構造変化 国際的な地位の低下や少子高齢化、グローバル化の進展など、現代日本の産業社会が直面する構造変化について概観し、特に製造業、工業として認識すべき課題等を理解する。</p> <p>第5回～第10回 工業発展のプロセス 戦後日本の経済成長、工業発展の軌跡について概観し、経済のグローバル化やこれに伴う企業経営の変化、産業構造の変遷など、現在に至るまでの道のりについて理解する。</p> <p>そのうえで、日本の成長・発展を支えてきた、繊維、化学、鉄鋼、電機、自動車等の主要な製造業、工業発展の歴史、さらには当該産業、主要企業における経営面の課題、戦略を把握するとともに、将来像などについても展望する。</p> <p>第11回～第13回 新たな産業の発展 産業社会の継続的な発展に不可欠な要素の一つである新たな産業・ビジネスの創出と成長のメカニズム、課題等について理解する。</p> <p>さらには、環境・エネルギー、観光・コンテンツ、医療・介護・健康、インフラ輸出、などといった新たな領域の産業・ビジネスの発展が期待される社会的背景や成長の可能性、課題等について考察する。</p> <p>第14回～第15回 地域経済の活性化 地域経済の活性化は、日本の産業社会が今後も成長力を維持するうえで重要な要素である。経済の活性化を目的とした過去の取り組み、例えば工業誘致などの施策とその結果・評価、および地域産業の現状と課題等について整理したうえで、最近の施策や取り組み事例等を分析することにより、地域経済活性化の可能性や方向性についての議論を深める。</p>		
テキスト	「現代日本の産業社会」河野俊明著(かんぽう)2016.1.1 ISBN978-4-904021-36-1 *購入を必須とはしないが講義の理解には有用		
参考文献			
成績評価の基準・方法	講義中に複数回実施する小テスト(50%)、授業中に実施する試験(50%)を基準に総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	一定の出席率と授業中に実施する試験の受験を単位取得の要件とする。		
実践的教育	該当しない。		
備考			